

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000254		
法人名	社会福祉法人 三頂福祉会		
事業所名	グループホーム洛西(2)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-610		
自己評価作成日	令和4年4月6日	評価結果市町村受理日	令和4年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にあります、「その人らしく」「これまでの生活の延長で」を尊重して、これまでの暮らしと変わらないように、施設で過ごして頂く事を心掛けています。出来る事はご自身で、自立を促し、残存機能の低下の防止、維持向上に努めています。一人一人に寄り添い、安全、安心して暮らせるように入居者様の気持ちを考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2694000254-006&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	2022/4/26		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングの窓いっぱい広がるテラスに大きなプランターを設え、芝桜の花が一面にピンク色に装いを和ませています。法人のケア理念を「その人らしく」「これまでの生活の延長で」として、一人ひとりの利用者に家庭的な心のもったサービスの提供を心掛けています。運営推進会議は併設の地域密着型特別養護老人ホームと合同で開催し、家族の委員は全員(47名)と考え、メンバーには毎回出欠の有無を訪ね、たくさんのメンバーで開催されています。ここ2年間は書面開催ですが、対面開催時の議事録はたくさんの意見が出されていました。グループホームは2階で2ユニットですが、リビングが繋がっている利便性を活かし、職員がお互いに助け合える時間帯を作り、ユニットごとで異なる作業内容に対して、職員の負担が偏らないようにしています。また、法人は年2回、コンプライアンスに関する職員アンケートをおこない、職員が負担やストレスを感じている場合は直ぐに対応しています。コロナ禍で面会が出来なくなった早い時期からオンライン面会を取り入れ、居室で話される利用者の姿も見受けられる程、定着しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初出社日にオリエンテーションを行い、法人理念を説明を行い、情報共有を行っている。理念の考えを現場の事例をあげ説明を行う。	法人のケア理念「その人らしく」「今までの生活の延長で」と掲げ、入居までに暮らしていた当たり前の生活をグループホームでも過ごせるように心のこもったサービスを心掛けている。また、地域密着型事業所として、地域との交流も大切に、地域に根差した利用者の生活を目指されている。理念はホームページやパンフレットに掲載し、職員用入り口と会議室に掲示している。職員には、入職時のオリエンテーションで説明している。	利用者の日々の生活を尊重した理念を、地域の人の目にふれ、知ってもらえるように、正面ロビーに掲示されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の行事が中止となり、交流は出来ず。運営推進会議の資料・議事録を配布して施設の情報をお伝えした。	運営推進会議や市民新聞(区民版)で地域の情報は得て、区民運動会や障害者施設の行事に参加し、ボランティアの方に来てもらい音楽の演奏をしてもらっていたが、今はコロナ禍で全てが中止になっている。近隣住民や幼・保・小・中との交流や事業所でのカフェ開催も希望されている。	「高齢者介護施設洛西」が、地域資源のひとつとなり、地域の人に向けて認知症の理解や支援の方法などをブログや地域に対しての掲示板の活用などで発信されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのアピールは行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、会議の開催は行えず、会議の資料・議事録を配布して施設の情報をお伝えした。	運営推進会議は併設の地域密着型特別養護老人ホームと合同でおこない、委員は新林区区自治会長、新林区区民生児童委員長、新林区区社会福祉協議会会長、杏掛地域包括支援センター職員、家族47名とし、全員に案内を送り、出欠の有無を聞いている。議題は利用者の状況、事故報告、食事のメニュー、レクリエーションの実施状況と予定などである。ここ2年間は書面開催で、議事録と資料の配布をおこなっているが、委員からの意見をもらえていなかった。	運営推進会議の対面開催の時はそれぞれに意見が良く出されていたが、ここ2年間は書面開催になり、資料と議事録を同時に送られ、意見は聞けていなかった。案内をされる時に資料も送付され、意見を求められるなど、サービス状況の評価をもらう取り組みの工夫が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録・事故報告書などを持参をする為、窓口へ訪問する。京都市より衛生用品の配布などがあった。	洛西支所の担当課まで提出物を持って行き窓口で渡している。行政主催の西京区洛西事業所連絡会は2か月毎に開催されるので、出席をして事業所の取り組みを知ってもらおうと共に、情報提供をもらっている。	

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回実施を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料を配布している。初入社日のオリエンテーション時に資料を配布して身体拘束のあり方の情報共有を行っている。センサーマットを使用している入居者はいるが、会議で必要性の有無を検討している。	身体拘束適正化委員会を施設全体で施設長、各フロア長、ケアマネジャー、看護師、生活相談員の参加で毎月開催し、職員にはフロア会議で報告している。また、年2回身体拘束廃止研修をおこない、欠席者には資料を配布して説明をしている。職員は利用者を尊重し丁寧に言葉を掛けると共に「待って」や「すわって」などの言動には「入居者にきちんと理由を説明して待ってもらうようにする」など具体的なアドバイスをしている。帰宅願望の方は気持ちに寄り添いベランダでゆっくりと話を聞き気分転換を図っている。センサーマットの使用はフロア会議で必要性について話し合い、使用する時は介護計画にのせると共に、記録をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行う事としている。研修へ参加出来ない職員へ資料の配布をしている。初入社日のオリエンテーション時に資料を配布して虐待防止のあり方の情報共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人のおられる入居者がいるが、学ぶ機会を設けることは出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結日、解約日には、契約書、重説などで説明を行い、随時質問へは対応を行っている。納得を頂き、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に、施設の取り組みや、今後の予定の報告を行い、要望を聞き、施設運営への反映を行っている。新型コロナウイルスの影響で面会を制限している。写真などで様子をお伝える。月1回の広報誌を配布している。	日常生活の中で利用者の意見を聞くと共に、家族には運営推進会議や電話、訪ねて来られた時、また、オンライン面会時に意見を聞いている。施設全体で家族にアンケートをとり集計・検討して、本部に報告すると共に家族に開示し職員にも渡している。家族には毎月、写真や入居者の自筆の言葉、職員からの一言を書き添えた手紙を送付すると共に、毎月施設の広報誌を発行している。家族からは、頻りに利用者の様子を伝えている事に対して、お礼の言葉や安心されている言葉を聞いている。コロナ禍になり早くからオンライン面会に取り組み家族に喜ばれていたが、家族からは、「対面面会がいつになったらできるのか？」との問い合わせもある。	

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア長会議、フロア会議を実施して、現場の意見を聴く機会を設けている。管理者会議で意見をまとめ早期解決に努めている。入居者の介助方法の変更など会議で検討する。年2回の職員の面談・アンケートを実施している。	職員からの意見は、フロア会議や日常業務の中で聞き、フロア長会議で検討し運営に活かしている。法人で年2回、職員アンケートを実施し、コンプライアンスの遵守を把握出来るようにしている。人事課の職員面談は年2回おこない、職員の意向を聞いている。職員からは、「利用者の介護記録をもう少し詳しく記入し、利用者のことをよく知る取り組みにしていきたい」との意見が出され反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を行っている。出来ている部分、出来ていない部分の確認を行い、改善する部分については指導を行うようになっている。職場環境・条件の設備は、その都度意見が出てきた時に、検討を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部研修の参加は出来ていない。施設内研修を月1回行い、サービスの向上・接遇面での向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で外部への研修参加は出来ず。インターネットより外部の情報を集め、サービスの質の向上へ取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、入居後は、こまめな声掛けと様子観察を行い、本人の思いを聞き取るようにしている。24時間シートの活用をして情報収集を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、契約時に施設の説明、計画書の説明、面会時に様子を伝え、ヒアリングを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の計画書の確認を行う。ご本人・家族の意見を確認する。施設への要望を確認して介護を行う。		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築くように努力はしている。本人と交流を持ち、少ない情報から思いを聞くようにしている。フロア会議などで情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築くように努力はしているが、具体的な事はおこなっておらず		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で面会を制限している。年賀状などが届くことがあり、本人へお渡ししている。ご様子を家族へ伝えている。	入居前の面談で生活歴や生活状況を聞き取り、馴染みの関係を把握し、アセスメントシートに記入している。また日々の生活の中で、利用者から聞き取ったことを申し送りで伝えたと共に、申し送り簿に記入し職員で共有している。コロナ禍までは家族と外出や旅行をされている方や、突然、利用者を訪ねて来られて(家族の許可を得て)会ってもらっていた方があったが、今では日常生活の中で、相撲の好きな方、編み物の好きな方などが継続できる支援をしている。年賀状を一人1枚書いてもらい誰に送りたいかを聞いて送っているが、年賀状などが本人に届いた時は本人に渡されているが、返事を書く支援はされていない。	利用者の馴染みの関係の人や場の把握をおこなっているが、「行きたい場所」「会いたい人」の実現に向けた働きかけや、もらった年賀所への返事を書く支援など、利用者が出来る支援の試みを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションを取れない利用者へは、職員が声掛けを行い、交流を行うようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後は、特に連絡は行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・ご家族様と面談を行い、思いを聞き取りしている。入居前の様子などを聞き、出来るだけ施設でも同じように過ごせるようにしている。	入居前の面談で、利用者の望む生活や意向を把握して、アセスメントシートに記入している。また、生活の中で利用者の思いや意向を聞くことが多く、申し送り時や申し送り簿に記入し、フロア会議のケアカンファレンスでも話し合っている。利用者は日々の暮らし方が、入居までと同じ生活が出来るように努めている。意思表示が困難な利用者は、家族に状態を伝えて、家族の意向を聞いたうえで利用者本位に検討している。	

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面談時に今までの暮らしを確認し、今までの生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居宅サービス計画書、本人、家族の意向を確認して計画書を作成、同意を得ている。モニタリングを定期的に行い、必要であれば再アセスメントを行っている。	入居前の面談は管理者、相談員が訪問で聞き取り、医療情報や居宅のケアマネジャーからの情報も含め、法人独自のアセスメントシートに記入し、サービス担当者会議をおこない、介護計画を作成している。介護計画の短期目標3～6か月でモニタリングをおこない、状態変化がなければ、長期目標の6ヶ月から1年で介護計画を見直している。変化のある方は再アセスメントをケアチェック表でおこない、管理者、看護師、ケアマネジャー、で(家族、利用者、主治医の意見も事前に聞いておき)サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成して、家族の同意を得ている。また、更新の時は評価表を使い、利用者の今の状態を細かく記入しより良く分かるようにしている。介護職員には介護記録やケアカンファレンスの時に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング、個別の記録を作成して、個別の計画書を作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる C63:C64F52C62:C63C63:C66F52C62:C63C63:C69	ご本人、御家族の意見を聞きながら、出来る範囲で対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で地域との交流は出来ていない。施設より運営推進会議の委員へ情報を提供している。		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の指定の往診医へ診てもらっている。以前からのかかりつけ医がご希望の方は、かかりつけ医に診てもらっている。往診医の専門外の受診が必要な場合は、家族と調整をして家族に協力をしてもらうようにしている。	入居時に主治医を選択できることを伝えているが、現在は全員協力医を主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。他科を受診する時は医師の紹介状を渡し、家族が同行しているが、職員は病院までの送迎をおこない、必要時は一緒に付き添い利用者の状態を伝えている。訪問歯科は週1回、希望者や必要な方が受けている。看護師は施設全体で2人医療連携で雇用し、一日1回の巡回で必要な処置や健康管理、薬の管理、往診時の付き添いを業務としている。また、24時間オンコールで利用者の急変時は指示を出している。協力医も必要時には往診依頼が出来る、などで利用者・家族、職員の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に1日、1～2名の看護職員が日勤帯で勤務をしている。異常がある時は、看護職員へ相談を行い、確認をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカー、家族と連絡を取り、情報交換を行っている。入院時は、施設の看護サマリーを渡すようにしている。退院前に本人へお会いで来るときは病院へ訪問を行い、情報を聞き取る。退院時は看護サマリーをもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、看取りについての説明を行っている。看取りについては、御家族の希望を聞く事としている。看取り支援を行う場合は、往診医・家族・施設と相談を行い、計画書の作成、記録の整備を行っている。看取りについての研修を行っている。	入居時に「看取り介護実施の指針」で説明をおこない、家族の希望を聞き同意をもらっている。また、医師の判断で看取り期になれば医師、家族、看護師、ケアマネジャー、介護職、管理者で会議をおこない家族の同意を得て計画書を作成している。緊急に入院されることが多く実績はないが、管理者、ケアマネジャー、介護職、看護師で看取り介護に関する評価及び報告を作成している。職員は年2回看取り介護に関する研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、フローチャートに基づき行動するようにしている		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。内部研修を行い、マニュアルの確認を行っている。昼・夜2回の避難訓練を実施。消防署に立ち合ってもらい訓練をしている。地域との協力体制は築けていない。	施設全体で年2回、昼・夜想定の大規模避難訓練で通報・初期消火・避難誘導などの訓練をしている。利用者は全員、職員と共に非常口まで避難している。年1回は消防署の協力を得て、AEDや消火器の使用方法などの指導も受けている。自然災害はハザードマップで該当する災害はなく、地震の訓練を今後の課題としている。備蓄は食料(水・レトルトご飯やおかゆ・乾パンなど)や毛布・マスク・手袋・懐中電灯など施設の屋上倉庫に保管している。福祉避難所の協定を京都市と結んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けを心を掛けている。プライバシー・認知症についての研修を行い、ケアの向上に努めている。その人にあつたケアを心がけています。	認知症ケアや人権擁護の研修で入居者の人格の尊重について学んでいる。欠席者にはユニットで資料を配布して伝達をし職員全員が学べるようにしている。言葉がけは敬語を基本として、名字にさんをつけて呼び、トイレや居室入室時はノックをしている。日常支援の中で職員の気になる言動があった時は、そのつど管理者やリーダーが声をかけ、ユニット会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を尊重しながら、ご自身の希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望し添いながら、声掛けや、見守りを行っている。ご本人のペースへ出来るだけ合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は、ご自身で選べる入居者はご自身で着替えが出来るように支援をしている。夜間は、全員パジャマに着替えるようにしている。		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で3食食事を作っている。行事食や旬の物を取り入れた食事を提供している。新型コロナウイルスの影響で、おやつ作りなどのレクリエーションを行えずである。	栄養士が立てた献立で、施設の厨房で調理・盛り付けて各ユニットに運ばれて来るので作り立て・適温の物が食べられている。また、旬の食材や暦の行事に合わせた食事を楽しんでいる。職員が検食をし、検食簿に味付けや利用者の食事の様子を含め書き、不都合がある時は事務所から栄養士に伝えるシステムがある。栄養士・調理師は利用者の食べている様子を見に来られている。おやつレクはマカロンにクリームをはさむ、おはぎを作るなど、コロナ禍からは、個々で楽しめる内容を考え楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望時や、決まった時間に水分の提供を行っている。希望者には、居室で飲めるように準備を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後には、全員口腔ケアを行うようにしている。昼食後は、希望者のみ対応を行っている。看護職員が確認を行い、必要に応じて歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意がある入居者は、要望時トイレ誘導を行っている。定時の声掛け、誘導を行う。トイレを使用していた場合は、施設でも準備使用してもらうようにしている。排泄用品についても本人にあった物を使用できるように定期的に検討している。	トイレでの排泄を基本にして、一人ひとりの排泄パターンを記録している。その人のリズムに合った声かけや、所作に合わせて声かけや誘導をしている。排泄時の様子も記録し、気になることがあるとユニットで話し合っている。排泄物品は業者と相談しその方に合った用品を選んでいる。紙おむつを使用している人も様子を見ながら定時に交換をして、気持ちよく過ごせるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操などで体を動かすようにしている。水分補給の促しも行っている。		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、個浴で1対1での対応を行っています。個浴を使用している為、毎回湯のほりかえを行っています。体調不良時は清拭を行うなどの対応を行っています。	週2回、午前・午後に個浴で毎回湯を入れ替、1対1の会話を楽しみながら気持ちよく入浴している。また、同性介助も希望があれば対応している。入浴後は保湿剤や化粧品など一人ひとりに合わせて整容をしている。併設の地域密着型特別養護老人ホームの寝台浴や車いす対応の浴槽を利用して、歩けない方や座位が保てない方も気持ちよく入浴できるようにしている。入浴拒否の方は、時間を変えたり、職員の変更で対応しているが、無理強いはないで、翌日に入ったり、清拭をする時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態に合わせて対応を行っている。退院時などは出来るだけ臥床を促し、体調管理に注意をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員が管理を行い、決められた時間に服用して頂くように支援をしている。往診時に往診医へ状態を伝え、薬の変更などの指示をもらうようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はご自身で行って頂くように声掛けなどを行っている。昔の趣味などを聞き、出来る事があれば、参加への促しを行っている。拒否をされる事もある為、無理には勧めず、その人にあった対応を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出する機会がほぼなかった。ベランダに出て、気分転換は図れるようにしています。地域の方との交流はありませんでした。	近隣への散歩や花見や紅葉狩りなどに出かけていたが、コロナ禍で今はできていない。ユニットのテラスで花火や桜の花を見たり、花壇の四季折々の花や景色で気分転換をしている。また、下肢筋力の保持に、テラスやユニット内を歩いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で使用する事は無い、御家族様へ管理は依頼をしている。ほしい物がある場合は、家族へ持参の依頼をするか、職員が立替を行い購入をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの要望時は、ご本人と電話が出来るように支援をしている。手紙は、御家族へ連絡後に本人へ渡すなどの対応をしている。		

京都府 グループホーム洛西(2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心掛けている。季節の行事に合わせた飾りつけを行っている。消毒を決められた時間に行っている。冬の間は乾燥に注意をして加湿を行っている。	リビングの大きな窓いっぱい広がる屋上テラスは、据え付けの花壇一面の芝桜が、利用者の心をなごませている。広いリビングにはテーブルが間隔をあけて設置され、飲み物を飲む人や新聞を読む人、テレビを見る人、そして、テラスのテーブルやソファで寛いでいる人など「その人らしく」、思い思いに「今までの生活の延長で」過ごしている。壁に掛けてある時計や、手作りの日めくりカレンダーは利用者の見当識の予防に一役を担い、行事の時に鯉のぼりや七夕笹飾り、クリスマスツリー、正月に鏡餅を飾ることも懐かしい行事を思い出させている。法人としてはスッキリ感を求め非日常的な装飾はされていない。温度・湿度は計器を見て、空調で調整している。換気は定期的におこない、空気清浄機を設置している。清掃や消毒は職員で分担している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が、入居者の性格を確認をしたうえで、席の配置を検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人、御家族の希望に合わせ、持ち込み家具の制限は行っていない。その人が自宅で使っていた家具を持ち込んでいる入居者もあり、居室内を自由に使用してもらっている。	居室入口に立派な表札が掛けられ自宅のイメージで利用者に安心感を与えている。また、居室の扉を開けた直ぐ左手に動線の安全面を考えた手すりを設置している。ベッド・布団・整理ダンス・照明・カーテン・空調は設えられ、馴染みのテレビや仏壇、アルバム、写真、相撲の専門誌、昔描いた絵や旅行の思い出の品などを持ってきて、好みを生かして居心地よく過ごしている。掃除や空調管理は職員がおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、ご自身で行って頂けるように環境作りに努めている。その人の思いの確認を行い、その人にあった生活が出来るように支援をしている。		